

海夫通信 第35号

【海夫】潮の香りをほのかに残すここ霞ヶ浦にもかつては多くの海の民がいた。海に寄り添い、潮の流れとともに暮らしていた人たちに思いを寄せて、今生きる霞ヶ浦の海夫たらんとす。

NPO法人霞ヶ浦アカデミー会報



CONTENTS

- 【特集】 ごろんコンサート報告
- 【特集】 葦舟世界大会のお知らせ
- 【特集】 オススメ！霞ヶ浦サイクリング
- 【連載】 霞ヶ浦プランクトン異変史 6
- 【報告】 通常総会の報告

7月19日

大地に寝転ぶと いつもと違う景色

生き物アカデミー 「ごろんコンサート&自然観察会」

講師に森林インストラクターでミュージシャンの山田証さんと、茨城県環境アドバイザーの安昌美さんをお招きして行いました。前日の天気予報では、雨マークが出ていたため、会場を手賀ふれあいの森から、高須崎交流館に変更しておこないました。ただ、雨は降らずに、おわるころには晴れ間も見えるようなコンディションでした。



高須崎公園内の雑木林にごろん。風の音と鳥のさえずり、そしてギターと歌声を聴くコンサートです。



山田証さん。寝転んで、下から木を見てるといいます。



安昌美先生は、葉っぱ一枚って何か、五感を使って植物を知ろうなど、植物について教えてくださいました。



野草を活けるなどのネイチャーゲーム！落ち名も子供も真剣に、好きな植物を選び、活けました。

生き物アカデミーは毎月第三日曜日(9:30~12:00)に開催しています。道の駅たまつくり(行方市)に集合し、各回のテーマ(魚とり、カヌー体験、草舟づくりなど)を通して、自然について学び・体験しています。小学生以上。お気軽にお問い合わせください。

山田証さんをお招きし素晴らしい森のコンサートになりました。幼児から後期高齢者まで多数参加頂き皆さん別世界を夢遊されて恍惚の一時でした。身近に何時でも出来る森があり新たな発見今後継続して自然環境を大切に、人と共生・感動を喜びあひ幸せを分かち合う園を作り上げましょう。今回、事務局長の菊地が企画し、たくさんの方の協力もあり開催することが出来ました。イベント後にはボランティアで地域の女将様の方々が食事を振舞ってくださいました。暑くお礼申し上げます。(喜多見照男)

● 新 理 事 紹 介



NPO法人霞ヶ浦アカデミーに参加させていただきまます伊藤秀真(いとうしゅうま)です。神奈川県藤沢市出身、鹿嶋市在住です。いろいろご縁がありまして鹿行地域に来て早13年になります。

2019年に神栖市の常陸利根川沿いの施設を譲っていただけることとなりキャンプ場施設をオープン致しました。

アウトドア事業をしておりま

す。霞ヶ浦アカデミーに参加の理由は、この霞ヶ浦、北浦を皆様に知って、楽しんでいただくために参加させて頂きました。

ボートのトーイングのイベント(ウエイクボードなど)等のアクティビティを年数回ですが行いたいと思いますので皆様ご参加宜しくお願い致します。

霞ヶ浦で、葦舟世界大会 やります！

森 保文



2021年3月6日および7日に、「ニホンウナギ杯争奪 第1回霞ヶ浦葦舟世界大会」を、霞ヶ浦アカデミーと行方カヌークラブが主催して開催することになりました。ただいま大会要項の仕上げや会場の確保など準備を着々と進めています。

この大会は、湖岸で自ら葦を刈り、その葦を束ねて自ら漕いで、その性能を競う大会を実施することで、葦原を整備しながら、湖とつながる人を増やすことを目的としています。



△葦舟を製作する様子

▽葦舟世界大会コース



霞ヶ浦の湖岸線の96%は、人工的な護岸堤になったため、葦などの水生植物の植生帯（葦原）はきわめて減少しました。離岸堤が植生帯を作るために建設され、いくつかの場所で葦原が復活しつつありますが、手入れがなされないため、植生帯の十分な復活につながついていません。葦原は、産卵場であり、水質浄化の機能を持ち、昆虫や魚などの水生生物の生息場所となります。葦を刈り取ること、葦が吸収した栄養塩を湖から取り除き、葦原が陸地になるのを防ぎ、植生を維持します。

参加チームは、現時点では、ベト

ナム、中国、手賀沼（千葉県）、佐鳴湖（浜松市）、広島、そして地元行方市を想定しています。もちろん今後、参加チームを熱烈大募集します。コースは、霞ヶ浦大橋南側に設定し、高洲崎公園側からスタートして、かすみがうら市側へ向かい、橋中央手前半分で折り返すコースを3周します。舟の大きさや形、乗員数は自由で、乗員は途中で交代してもかまいません。

来年春季に、霞ヶ浦大橋から、湖上を疾走する様々な形の葦舟が見られるはずです。応援もしくは参加をよろしく願います。

NPO法人霞ヶ浦アカデミーは、みなさまのご支援により活動を継続できています。活動を共にしてくれる、また応援してくれる会員を募集しています。ご協力よろしくお願いいたします

普通会员 入会金 1,000円／年会費 3,000円

賛助会員 1口 10,000円

【入会の方法】

氏名、住所、連絡先、会員の種類をご記載の上、メールもしくは郵送でご連絡下さい。

✉kasumigaura.academy@gmail.com

住所 茨城県行方市浜370-1

【入金方法】

常陽銀行 玉造支店 口座番号1292552 特定非営利活動法人霞ヶ浦アカデミー

霞ヶ浦プランクトン異変史 6 オシロトリア Oscillatoria (2)

浜田 篤信

▼薄光層で増殖

植物プランクトンの優占種がアオコからオシロトリアへと推移したのは1982～1985年頃でした。

その原因は明らかにされてはいませんが、茨城県霞ヶ浦環境科学センターの2004年度成果発表会で光環境であることが明らかにされました。ここで研究対象となっているのは、1978～2002年の期間ですが、1993～2000年の間に原因不明の白濁現象が発生し、湖水中への光の透過が悪くなっていたことに着目し研究を行っています。その結果、

▼霞ヶ浦北浦での発生状況

1975年以前の大発生は？問題となるのは、白濁発生以前の大発生の原因です。オシロトリアは、1966～1967年、1971年にも大発生しているのに、白濁が発生していない状態でのオシロトリア大発生の原因は何か？です。

オシロトリア発生条件の一つは「薄光」です。となると、この問題は、「白濁以外の薄光発生条件とは何か？」に置き換えられます。白濁以外の「薄光発生条件」として考えられるのは、以下の三つです。第一は、湖の水深です。水資源管理で従前よりも約30cm、大規模浚渫で約30cm 合計60cm だけ水深が大きくなっています。このことが下層の薄光条件に影響を与えることとなります。

第二に「濁り」の影響が考えられます。水生植物帯や砂浜の消失で波浪が直立コンクリート護

オシロトリアが弱い光条件下で増殖していたことが明らかになりました(中村剛也2004年度霞ヶ浦環境科学センター成果発表会資料)。ここで「弱い光」というのは、水面直上の0.001～0.01%の範囲の光量で、湖水上層の「真光層」に対し「薄光層」と呼ばれています。白濁現象で「薄光層」が出現するようになったために、その条件に適した種、なわちオシロトリアが優占種となったとされています。そこで問題となるのは、白濁現象発生以前のオシロトリア優占です。

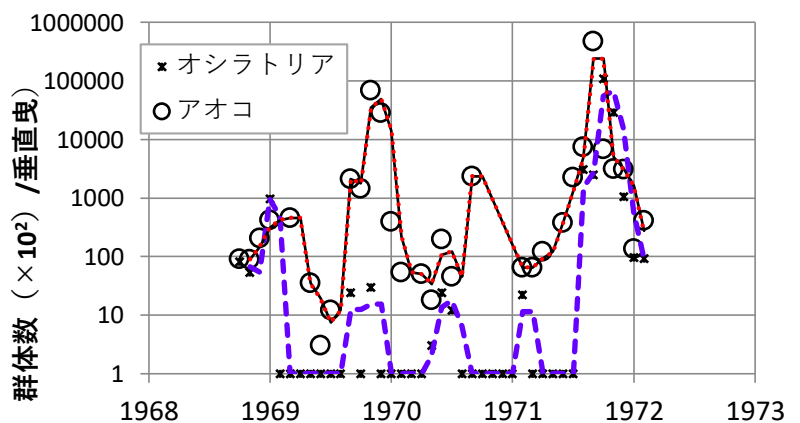
岸に衝突反射し懸濁物質が沈降し難くなっています。また気象変動で河川からの濁水の流入が増加しています。

第三は植物プランクトン自身の増殖です。アオコが大発生し水面を覆えば光の透過が減少します。「上層アオコ・下層オシロトリア」というパターンです。

上記の第一、第二の条件は霞ヶ浦開発後に起こり得る条件であるのに対し、第三は霞ヶ浦開発期間中に起こりえた条件です。そこで前述(海夫通信31号)のオシロトリアの変動を改変し以下に再掲載しました。

▼原点：神ノ池へ

連載第一回(海夫通信30号)でオシロトリア大発生の事例として神ノ池を紹介しました。「なぜ、鹿島灘と外浪逆浦の中間に位置する砂質地帯の浅い湖でオシロトリアやアフアノカプサ



この図からアオコ(Microcystis spp.)とオシロトリアが、若干のずれをとめない平行しながら変動していることが伺えます。特に1971年のオシロトリア大発生はアオコのピークとよく一致しています。

等の藍藻類大増殖が、富栄養化現象発生前の昭和初期に、恒常的に発生していたのか？という湖沼学者を悩ませてきた問題です。

その答えも、また、ここに見出すことができます。神ノ池ではアオコではなく、アフアノカプサやアナペノプシス・ラシボルスキー大発生が、薄光層を準備しオシロトリアの大発生を促したものと考えられます。その第一

次原因となっている先行発生種のアフアノカプサやアナペノプシスが、窒素・リンの供給が希薄であった神ノ池で、どのような条件に支えられて大増殖できたのか？も重要なテーマです。その原因も、また、光条件で、水深の影響と考えることができます。

ここではもう一つ重要な情報を発見することが出来ます。連載第一回で紹介した根拠論文では、下層にアフアノテーク(Aphanizomenon)が大量に堆積していたことが報告されています。アフアノテークも、1970～1980年頃のアオコ優占期に霞ヶ浦で頻繁に出現した種でした。このことは薄光層で増殖できる種がオシロトリアだけではないことを示唆しています。

1989年9月だったでしょうか。漁業者から、以下のような問合せがありました。「エビ・ゴロをねらって(トロールで)下層を曳いてシド(魚とり部)を上げたら黄緑色のヌルがシド一杯に入っていて収穫は皆無だった、なんだ？」というのです。私は、「いまはアオコからオシロトリアという新しい種類のプランクトンが多くなっているから、この新しいプランクトンの残骸ではないか」と答えました。プランクトンの遷移は、魚類群集にも波及しワカサギに代わって増えていたテナガエビやハゼ類が減少が始めていました。こうした漁業者の不安や霞ヶ浦の環境保全を解決するためには、水深毎の詳細な調査が必要だったのです。この時代の調査は、それまでのプランクトン・ネットの垂直曳きから表層水だけの顕微鏡観察に代わって、この微細構造には手が届かなかったのです。

▼神ノ池からの教訓

神ノ池を原点に霞ヶ浦開発時代のプランクトン異変を振り返ってきました。この一連のプランクトン異変を代表する現象は、「昭和48年のアオコ大発生」で、このことが「霞ヶ浦富栄養化防止条例および保全計画」の起点となっていますが、「昭和48年のアオコ大発生」の原因も、異常湧水による「天災説」と逆水門操作による「人災説」に議論が二極化し真相解明には至っていませんでしたが、おぼろげながら真相が見えてきたように思われます。現在、開発がすすめられている霞ヶ浦導水事業では利水や湧水対策として霞ヶ浦からの導水が計画されています。導水量にもよりますが、この事業によって霞ヶ浦の水位がY P・Om以下に低下すると、霞ヶ浦開発時代のプランクトン異変が再現されることになるのかもしれない。特に「薄光」条件を利用して下層に出現するオシロリアは、「薄光」とはいえ、余分な光エネルギーを霞ヶ浦湖水中に有機物として固定しCODを上昇させます。水質保全計画では、窒素・リンに関係しないこうした条件・プランクトン出現種の種特性への配慮も必要となります。

神ノ池でフナにカビ病が発生したことは前述（海夫通信30）したとおりですが、1971と72年にもハゼ類では罹病率50%という高率で魚病が発生しました。しかし、その原因については、アオコ大発生同様、「お蔵入り」になっていました。オシロリアが上水のカビ臭原因物質を産生し利水障害を引き起こすことは周知のところですが、オシロ

リア・アガルデイがアナトキシンという毒性物質を産生することもわかっています。1971・72年にも霞ヶ浦ではオシロリアが発生していたので、その影響を勘案しなければなりません。また、1988年にも優占種がオシロリア・アガルデイとなり、霞ヶ浦ではカビ病が発生しました。その原因について、オシロリアが産生する毒性物質を指摘する報告があります（外岡他、茨城県内水試報告26、1990）。

また、オシロリアは植食連鎖の担い手となって動物プランクトンの増殖を促し、ワカサギ・シラウオの増産に寄与します。植物プランクトン食のゲンゴロウブナやハクレンの成長を促します。しかし、腐食連鎖系には不向きで、ハゼ類やテナガエビ等の雑食魚の生産は低下します。

以上のように管理の時代においては、管理の状態によって植物プランクトン増殖が変化します。この変化は、水質は勿論ですが、魚類群集、漁業あるいは利水にも大きな影響をおよぼすことになるので管理・開発を進める上ではきめ細かい配慮が必要となります。

濱田篤信（はまだあつのぶ） NPO法人霞ヶ浦アカデミー。東北大学農学部修士課程修了（海洋学専攻）。農学博士。東北大学助手を経て、茨城県水産試験場内水面試験場に勤務。主な著書に『新しい自然保護の考え方』（共著、古今書院）『霞ヶ浦の魚たち』（共著、霞ヶ浦情報センタ）等がある。



オススメ！霞ヶ浦サイクリング

栗又 衛

いま、茨城では自転車アツイ！

茨城県は昨年「いばらきサイクルツーリズム構想」を打ち上げ、県内で4本の自転車道を整備しています。その一つが総距離180kmの「つくば霞ヶ浦りんりんロード」です。昨年、国土交通省が創設した「ナショナルサイクルルート」（3本）に認定されました。東京方面からの玄関である土浦駅の駅ビルは、県と市がJR東日本と組んで、日本最大級とPRするサイクルリングリゾート「プレイアトレ」に大規模リニューアルされ、星野リゾートがサイクリスト向けのホテルをこの春オープンしました。

県は湖岸に自転車専用道の整備を進め、土浦市は土浦港に広い駐車場のある「りんりんポート土浦」を新設し、かすみがうら市は歩崎公園に交流センターと浮き桟橋を整備するなど、予算を注ぎ込んでいます。しかし、昨年のりんりんロード利用者は9万3千人（筑波山220万）と、まだまだ「笛吹けど踊らず」が実態です。行政主導から市民が主役の「自転車地域づくり」に発展できるような道を探りたいものです。

自転車で再発見！霞ヶ浦

霞ヶ浦大橋を渡っての一周（高浜入り抜き）は、およそ90kmです。車で湖岸を一周することも可能ですが、自転車で颯爽と走れば、今の霞ヶ浦をリアルに体感することが出来ます。湖畔に広がる水田そしてハス田。農作業をする人たち。たくさんある船溜まりをみれば、漁業の現状を窺い知ることも出来ます。佃煮などをつくる水産加工場が多いことにも気づくで

しよう。現代の象徴IT産業のビルも、歴史を語る戦争遺跡・資料館も見られます。自転車は水がめ化のために造られた堤防を走ります。どこまでも続く葦原と水鳥たちが織りなす自然は私たちを癒やしてくれませんが、湖岸に沿って延びるコンクリートの無粋な離岸堤は気になるところです。一周すれば何力所かで土木工事に遭遇し、必要性に疑問を感じたりします。

楽ちん！自転車の乗り方

- 霞ヶ浦は平坦なので、自転車にはうってつけと言うことも出来ますが、雨の日はもちろん、真夏の暑さにも、真冬の寒さにも、向かい風にも「弱い」乗り物です。そこで、楽ちんな乗り方をお教えします。
- ① 午前中（早いほどよい）に乗りましょう。午後は風が強くなりますから。
 - ② 天気予報で風向きを調べ、なるべく追い風になるコースを選びましょう。
 - ③ お尻が痛くなります。パッド入りのズボンやサドルカバーを活用しましょう。
 - ④ 電動アシスト自転車（eバイク）がオススメです。レンタルもあります。



2020年度 通常総会 は 書面での決議により実施しました

2020年度の通常総会はコロナウイルスの感染拡大防止のため書面での決議とし、賛成多数で可決されました。

報告第1号 ◇ 2019年度 事業報告

活動の概況

2018年10月に、わたしたちNPO法人霞ヶ浦アカデミーは設立10周年を迎えた。それに合わせて、設立10年の記念誌の準備し、2019年に刊行することが出来た。

また、第17回世界湖沼会議の中で報告した、「日本ウナギ衰退原因の新しい仮説」について、水産増殖学会へ掲載されることになり、ウナギの減少原因が利根川開発にあるという当会の仮説を示すことが可能となった。「生き物アカデミー事業」においては、霞ヶ浦における暮らしを小中学生が体験できる内容として、漁業体験を中心に行い、新しい暮らしの1ピースになることを願い葦舟の製作などを加えた。

特定非営利活動に係る事業

1 生き物アカデミー講座開催

小中学生を中心に生徒を募集し、霞ヶ浦における観察会を中心に魚類の採集や調査を行いました。特に、湖岸の自然の再生について観察会や討論、提案等を行いました。

- 4月21日「フナ産卵場を調べる」
- 5月19日「たかっぱの製作」
- 6月16日「たかっぱの引上・笹浸しの製作」
- 7月21日「笹浸しの引き上げ・魚とり」
- 8月18日「カヌー体験」
- 9月15日「カヌー体験」
- 9月22日「カヌー体験」
- 10月20日「投網の練習」
- 11月17日「エビ・ハゼを捕まえよう」
- 12月15日「アシ舟を造る①アシの刈り取り」
- 1月19日「アシ舟を造る②パーツの組み立て」
- 3月15日「アシ舟を造る③葦船に乗る」

- 2 講座
- (1) 総会記念講演会

開催日 2019年5月19日(日)
講師 萩原富司氏(NPO法人土浦の自然と歴史を守る会)
場所 霞ヶ浦環境科学センター(土浦市)

(2) 湖上スクール 開催日 2019年8月24日
参加者数 16名

場所 土浦駅集合、霞ヶ浦観光遊覧船ラクスマリナ船上(土浦市)、霞ヶ浦ふれあいランド(行方市)

(3) 湖上スクール 開催日 2019年11月19日
参加者数 37名

場所 羽鳥駅集合、霞ヶ浦観光遊覧船ラクスマリナ船上(土浦市)、他

(4) 霞ヶ浦導水事業についての座談会
開催日 2020年2月16日14時〜5時半
講師 濱田篤信氏(当会監事)
場所 霞ヶ浦環境科学センター(土浦市)

3 調査研究事業

(1) ニホンウナギの資源研究

絶滅危惧種ⅠB類に指定された本種について、その減少原因に関する仮説を設定し、検証の作業を進め論文を作成、水産増殖学会への投稿を行った。

4 日越農村農村交流会

日本で就業するベトナム人を対象に交流会を春・秋の2回開催した。日本の農村、漁村について、学び・体験するプログラムを通し、両国の交流と情報交換を目的としている。

(1) 日越農村農村交流会2019春
開催日：4月27日(土)〜28日(日)
場所：高須交流センター、他(行方市)
参加者：16名
主なプログラム：田植え体験、大葉の収穫、他

(2) 日越農村農村交流会2019秋
日付：平成30年9月29日(土)〜30日(日)
場所：高須交流センター、他(行方市、小美玉市)
参加者：7名
主なプログラム：カヌー体験、納豆工場見学、他

5 出張講座
(1) なめがたミレニアムマルシェ(ボスター展示)
開催日：2019年12月7日、8日
場所：道の駅たまつくり(行方市)

(2) 霞ヶ浦ふれあいランドカヌー体験
開催日 2019年8月31日
場所 霞ヶ浦ふれあいランド(行方市)

(3) 土浦二中地区公民館講座
トンボ講座と題して講師を担当し、トンボについての講話とベトナムの竹とんぼへの絵付け体験を実施した。

開催日：2019年7月20日
場所：土浦二中地区公民館(土浦市)

6 広報事業

(1) 会報の発行
海夫通信 31号〜33号を発行しました。

(2) ホームページの更新
活動内容などHPを更新しました。

(3) ブログ・フェイスブックの更新
ブログ「海夫通信003」、フェイスブックの更新を定期的に行っています。フェイスブックのフォロワーは320名(前年比+70名)、投稿回数は48回、記事のリーチ数は最大1688件でした。

7 設立10周年記念誌の作成
設立10周年記念誌を発行し、会員などへ送付しました。また、アマゾンで購入可能とした。

8 理事会・総会
(1) 総会 2019年5月19日
開催場所：霞ヶ浦環境科学センター
事業報告・会計報告、事業計画・予算について質疑・承認

(2) 理事会および協議会
毎月第三日曜日の午後実施した。

報告第2号 ◇ 2019年度 決算

特定非営利活動に係る事業

収入の部

費 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増 減
前年度繰越金	362,382	362,382	0
入会金・会費	50,000	65,000	15,000
事業費	100,000	168,075	68,075
寄付金	150,000	212,850	62,850
助成金	500,000	680,000	180,000
その他事業から	50,000	0	△ 50,000
雑収	18	1	△ 17
合計	1,212,400	1,488,308	275,908

支出の部

費 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増 減
(事業費)	760,000	1,027,403	267,403
会議費	10,000	10,677	677
報償費	100,000	218,500	118,500
消耗品費	100,000	612,573	512,573
印刷費	500,000	149,873	△ 350,127
保険料	50,000	35,780	△ 14,220
(管理費)	452,400	198,960	△ 253,440
旅費	100,000	37,426	△ 62,574
事務費	30,000	65,139	35,139
通信運搬費	50,000	96,395	46,395
会費等	15,000	0	△ 15,000
予備費	257,400		△ 257,400
合計	1,212,400	1,226,363	13,963

議案第1号 ◇ 2020年度事業計画

Ⅰ 基本方針

NPO法人霞ヶ浦アカデミーは、「湖がある暮らし」のデザインを目標に、これまでの活動をさらに発展させていきます。2021年3月には葦舟世界大会の開催を目指し、「葦舟」を霞ヶ浦の湿地の保全と、自然体験が出来るコンテンツとして確立を目指します。「生き物アカデミー」事業においては、子どもたちが野外での活動が重要であるとの観点から、継続していきます。

2 理事会等の運営

毎月第3日曜日の午後に定期的に理事会を開催します。
運営はできる限りオープンにし、オブザーバーの参加を歓迎します。

3 特定非営利活動に係る事業

(一) 生き物アカデミー講座開催(年2回実施)

霞ヶ浦における観察会を中心に魚類の採集や調査を行います。霞ヶ浦の伝統的な漁法を学びながら、湖と暮らしがどのようにつながっていたかを学ぶプログラムです。子供たちの問題解決能力・生きる力・自主性向上を狙います。葦原の手入れ、定期観察、葦舟の作成を含む年間プログラムを実行します。
日時：毎月第三日曜日 9時半～12時
対象：小学生以上
集合：道の駅たまつくり

(二) ニホンウナギ杯争奪！葦舟世界大会の開催

▼目的 湖岸で自ら葦を刈り、その葦を束ねて自ら葦舟を作り、その葦舟を自ら漕いで、その性能を競う大会を実施することで、葦原を整備しながら、湖とつながる人を増やすことを目的とする。▼開催日 2021年3月6日および7日 小雨決行▼場所 (葦刈り)高須崎の湖岸、(葦舟作成)高須崎公園の南側駐車場、(競技)霞ヶ浦大橋の南側、行方市側からスタートして橋中央付近で折り返すコース
▼関連行事 葦舟フォトコンテスト

(三) 霞ヶ浦に親しむ事業

(a) 親水事業
行方カヌー部と連携し、カヌーなど水と親しむ活動を推進していきます。
(b) 魚食の普及
霞ヶ浦の水産資源の普及に係る活動を推進

していきます。

(四) 霞ヶ浦講座 年4回開催

平成20年11月以来64回にわたって毎月一回開催してきた講座を、霞ヶ浦の環境、生物、歴史、開発等に関係するテーマについて4回程度実施します。茨城県霞ヶ浦環境科学センターの事業である湖上スクールを活用した講座 常陸川水門の魚道の夜間観察会を開催します。

(五) 調査研究事業

(a) 自然の研究

▼ニホンウナギの資源研究
絶滅危惧種ⅠB類に指定された本種について、すでに研究を始め、その成果は会報で取り上げました。本種の保全には霞ヶ浦の適正な管理が必要であることが明らかになりつつあるので、より精度の高い研究に取り組み、ウナギ復活のための提言を行います。

▼ビオトープの設置と生物多様性の研究

生物群集の生息空間であるビオトープを造成し、生物多様性の変化を観察します。

(b) 六次産業化に関する研究

▼魚醬の試作および研究
霞ヶ浦には豊かな水産資源がありますが、淡水魚を食す習慣がなくなりつつあります。霞ヶ浦の水産業を活かすために、六次産業化が必要と考えます。その一つとして、魚醬の試作を行います。また魚醬試作にあたり、私たちも漁業技術の習得を目指します。

(六) 日越農村漁村交流事業

経済成長とともに衰退した日本の漁村、農村の姿を見て、発展途上国ベトナムにおける持続可能な地方の在り方を考えてほしいと思い2017度から開催しています。2020年度は春の交流会の開催を見送り、秋大会のみ実施します。

(七) 広報事業

海夫通信を4回発行します。ホームページはコンテンツを充実させます。ブログ、フェイスブックは定期更新し情報を発信します。

議案第2号 ◇ 2020年度予算
特定非営利活動に係る事業

収入の部

費 目	予算額 (円)	前年度決算額 (円)	増 減
前年度繰越金	261,945	362,382	△ 100,437
入会金・会費	70,000	65,000	5,000
事業費	200,000	168,075	31,925
寄付金	200,000	212,850	△ 12,850
助成金	500,000	680,000	△ 180,000
その他事業から	50,000	0	50,000
雑収	55	1	54
合計	1,282,000	1,488,308	-206,308

支出の部

費 目	予算額 (円)	前年度決算額 (円)	増 減
(事業費)	660,000	1,027,403	△ 367,403
会議費	10,000	10,677	△ 677
報償費	150,000	218,500	△ 68,500
消耗品費	300,000	612,573	△ 312,573
印刷費	100,000	149,873	△ 49,873
保険料	100,000	35,780	64,220
(管理費)	622,000	198,960	423,040
旅費	300,000	37,426	262,574
事務費	100,000	65,139	34,861
通信運搬費	100,000	96,395	3,605
会費等	30,000	0	30,000
予備費	92,000		92,000
合計	1,282,000	1,226,363	55,637

編集後記

長い梅雨が終わったかと思うと、毎日の猛暑で嫌になります。職場では冷房を入れていますが、出入口は開放し喚起が徹底(なかなか冷えません)。そしてマスク。こんな状況です。今年度の通常総会は、実会場で行わず、書面での決議とさせていただきます。一方で、ウェ

ブ会議システム(ZOOM)を使った意見交換会を開催し、今年度の運営について、さらにはコロナ下の対応についてご意見と応援を頂きました。ご参加いただいたみなさん、ありがとうございました。

今年度は、3月に葦舟世界大会の開催を考えております。毎日、ニュースを見て、今日の感染者数は何人なんだろうかと気にしていま

すが、開催できる情勢になっていること願っています。
さらに、鹿嶋市でアウトドア事業などを手掛けている伊藤さんが理事に加わり、事業も、活動場所も広がりました。
私事になりますが、行方市に引っ越して10か月になりました。夫婦で、小さな畑を作り、民泊事業を始めました。大学生がBBQにやってきたり、親子で遊びに来てくれたりして、楽しんでいます。また、草刈りが大変なのでヤギを迎えることになりました。次号でお披露目出来ると思います。

(菊地章雄)



水景湧水地研究所 Vol.1

柿田川湧水公園

日本全国の美しい水にまつわるスポットをご紹介します



柿田川は国指定天然記念物です。富士山周辺に降った雨や雪が、数千年前の富士山噴火で流失した溶岩のなかに通って、地上に湧き出た地下水が柿田川のもとになっています。国交省が行った調査によると、雨や雪が柿田川の湧き水となって地上に現れるまで、26～28年かかるそうです。

エリア：静岡県清水町
湧水地：柿田川湧水公園
アクセス：沼津ICから約15分

柿田川湧水公園には自然散策路が整備されており、美しい柿田川を間近で見ることが出来ます。年間をとおして水温は15度に保たれていて、夏でも冷んやりした空気を感ずります。ゆっくり見学しても約1.5時間あれば十分楽しめます。



ここがイチオシ

「第一展望台からの眺め」がイチオシです！地下からこんこんと湧き出る水の様子は、地球の神秘を感じます。エメラルドブルーの湧水で心が洗われるようです。



ライター／菊地早秋
プロフィール／<https://linktr.ee/skikuchee>

書籍紹介

「NPO法人霞ヶ浦アカデミー」の10年間の挑戦がまとめられた1冊。わたしたちの霞ヶ浦にニホンウナギを取り戻すための取組がまとめられている。環境教育の現場から、調査研究の活動まで市民団体がどのような働きかけを行ったか等が記してある。1500円＋税。購入はAmazonもしくは事務局まで。

✉ kasumigaura.academy@gmail.com



発行 NPO法人霞ヶ浦アカデミー

発行日 2020年8月31日

事務所 茨城県行方市浜370番地 1

ホームページ <http://www.k-academy.sakura.ne.jp>

Facebook <http://www.facebook.com/kasumigauraAC/>

ブログ http://blog.livedoor.jp/kasumigaura_ac/

いいね！お願いします

facebook で
日々の活動を更新中！

